

流れ藻漂流予測 速報(4)

鹿児島大学水産学部水圏科学分野

2023年3月5日

鹿大水産学部練習船「かごしま丸」により、2月17日、海上を漂流中の3個の流れ藻にペットボトル型ブイを取り付けて、その漂流経路を人工衛星ARGOSシステムで追跡しています。

その内の1つのブイが、黒潮の本流に取り込まれ流下方向に移動しています(詳細は「[流れ藻観測速報R5_016](#)」を参照)。これを受けて、海況予報モデル(DREAMS_E)により、このブイの**37時間先の漂流予報**を行いましたので、結果を公開します。

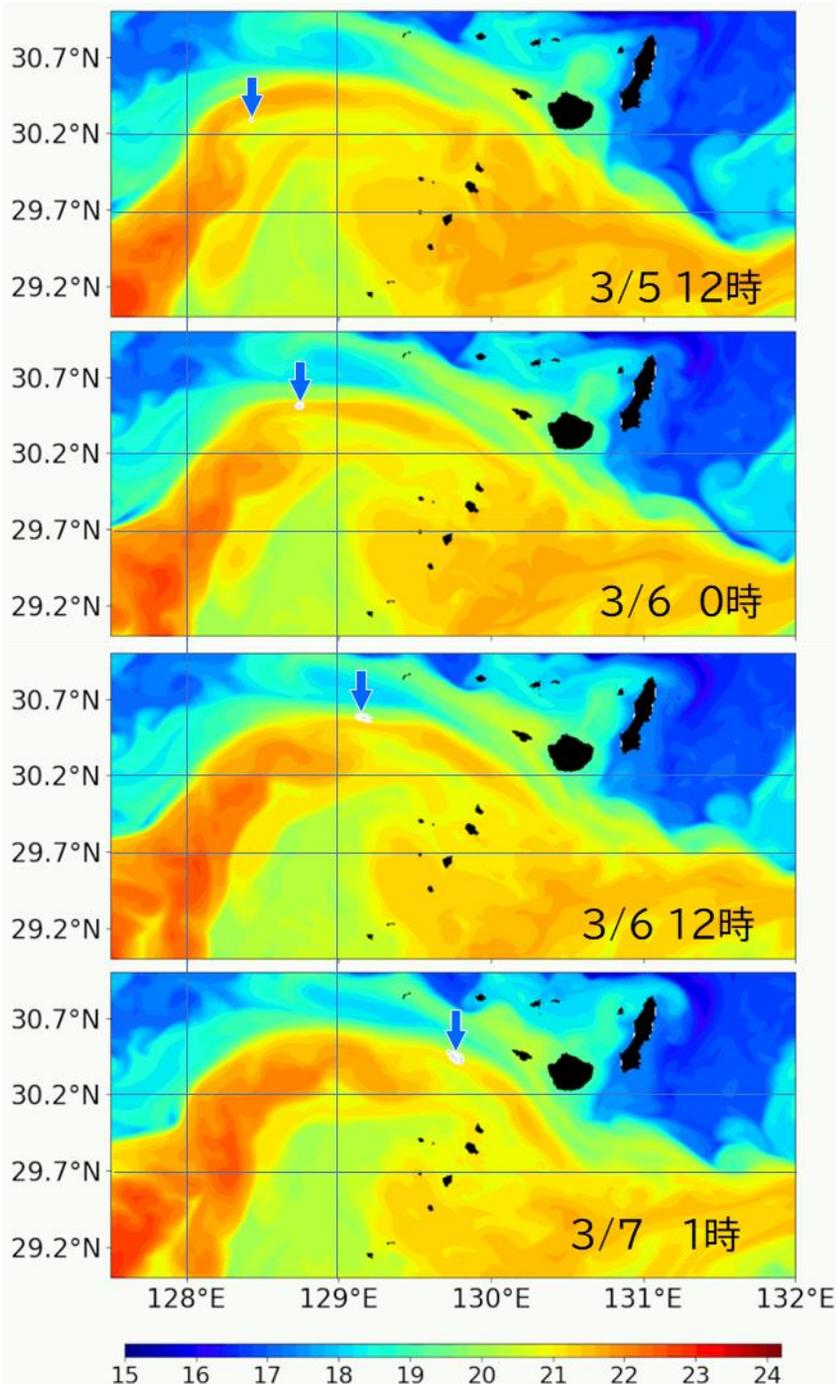
解説:3月5日12時(日本時間)からの漂流経路を、**37時間先(3月7日1時)**まで予報しています。予測モデルでは、1000個の粒子を追跡します。海流(潮流を含む)と波の効果(風速の0.5%の速度効果)で粒子は移動します。

注意:1000個という粒子数は、流れ藻集団の規模に関連してはなりません。流れ場の分散の度合い(まとまって移動するか、バラバラになるか)を評価するために設定しています。

今週末は冬型の気圧配置が弱まるので、風の影響は小さいと考えられます。したがって、ブイは流れに流されて、屋久島と口之島の間を3月7日頃に通過すると予測されます。

予測精度については、予測モデルの流速分布の再現性と風の効果の微妙な誤差に左右されます。予測が当たらないこともありますので、ご注意ください。

[この予測結果の解釈については、流れ藻観測速報R5_016の漂流ブイ観測速報と合わせて、ご参照ください。](#)



漂流予測図

流れ藻を模倣した粒子の移動・分散(日本時間 5日12時~7日1時までの予測)。カラーは海面水温(赤の高水温帯が黒潮)。

※この図は漂流予測の動画から開始時と終了時の画像をキャプチャしたもの。[動画はwebページ](#)に掲載。